

静嘉堂文庫所蔵『建康実録』校勘記（一）

津田資久

はじめに

唐・許嵩によって撰述された『建康実録』全二〇巻は、六朝「正史」を補完する内容を有するものの、許嵩自身による先行史書の誤読で史実を創作している記事も少なくない¹⁾。そのため、六朝史研究において積極的な評価や活用がなされないまま、悩ましい史籍として敬遠される傾向にある。これに加えて本書には良質な版本・鈔本が存在しないため、張忱石点校『建康実録』（以下、張校本と呼称。全二冊、中華書局、一九八六年。のち一部断句を修訂のうえ再版、二〇〇九年）と孟昭庚・孫述圻・伍貽業点校『建康実録』（以下、孟校本と呼称。全一冊、上海古籍出版社、一九八七年）が刊行され、利用が容易になったとはいえ、その字句に関して依然校勘上の問題が多く²⁾、両校本が出版されてからも、専ら六朝「正

史」との対校が本書の研究の大半を占めてきたと評しても過言ではなからう³⁾。

しかしながら、右のような研究状況にあり、最古かつ全ての版本・鈔本の祖本と見られるテキストでありながら、諸研究で等閑視されて十分に校勘に活用されてこなかったのが、一セットしか現存しない中国国家図書館（旧北京図書館）所蔵の南宋紹興刊本（以下、『宋本』と呼称）である⁴⁾。現状の『宋本』は、保存状態があまり良好ではなかったため、擦れたり滲んだりして文字が曖昧模糊となったり、紙が欠けて見られなくなった箇所が多く、それ故に利用が必ずしも容易ではないが、その『宋本』の不全文字や欠落文字をある程度補い、対校テキストになり得る鈔本が日本に存在する。それが清の著名な蔵書家であった陸心源の「十万卷楼旧藏本」に収録され、その後、現在の静嘉堂文庫に所蔵されるこ

ととなった『写影宋 建康実録二十卷』（以下、陸本と呼称）である。⁽⁵⁾ この陸本は、現在より状態が良い時期に『宋本』ないしそれに近いテキストから筆写されたと思われるが、日本では従来から知られていたものの、実際にその全体に関する内容・特徴が紹介されたことはなかった。⁽⁶⁾

本稿では、今後の『建康実録』の諸版本・鈔本の総合的な比較検討による、より良質な校定本の作成を最終的な目的とし、その前提として『宋本』系統の特徴解明と文字の異同を把握するため、以下に『宋本』と陸本との対校を行うこととする。それに先立ち、陸本の書誌情報を確認し、校勘の凡例を示した。

なお、今回は紙幅の都合、孫呉部分に当たる陸本の第一冊巻第一〜第四を校勘する。

一 陸本の書誌情報

静嘉堂文庫所蔵の陸本は、八函二五架に配される全六冊の線装本であり、各冊は縦が約二八・五センチ、ヨコが約一八・三センチの大きさで、本文の前後を挟む遊び紙が一枚ずつ入れられている。一葉当たり二二行（半葉で二一行）あり、一行は基本的に二〇字であるが、時として増減がある。また蔵書印は「静嘉堂蔵書（篆書）」しか押印されないことから、陸心源のもとで筆写された鈔本と見られる。書写に関しては、『宋本』欠落葉に相当する箇所には白

紙を挟み、力強い筆致による巻第一〜五、比較的細めの筆致による巻第六〜十六、再び力強い筆致による巻第十七〜二十となっており、二人ないし三人によって全巻筆写されたことが窺われる。なお、現存『宋本』には巻第十一第一葉表が欠落しており、これが『四庫全書』本や張校本と孟校本の底本となっている甘元煥・甘曾圻版本（桑泊草堂翻宋刻本）と最大の違いとなっているが、⁽⁷⁾陸本も『宋本』と同様にその部分は白紙とされており、少なくともその部分が散佚したかなり遅い時点での筆写にかかるものと考えられる。⁽⁸⁾

各冊の収録巻数や葉数の詳細については、以下の通りである。

第一冊（厚さ約一・三センチ。全八七葉。「序」、巻第一〜巻第四を収録）

※「序」は、全一葉（『宋本』では「敍」となっており、全一葉）。一葉目内題の下に「静嘉堂蔵書」印。

※巻第一は、全二五葉（『宋本』も全二五葉）。一葉目内題の下に「静嘉堂蔵書」印。

※巻第二は、全二二葉（『宋本』は全三六葉）。

※巻第三は、全一五葉（『宋本』も全一五葉）。

※巻第四は、全二四葉（『宋本』も全二四葉）。

第二冊（厚さ約一・二センチ。全九四葉。巻第五〜巻第八を収録）

※巻第五は、全二二葉（『宋本』も全二二葉）。一葉目内題の下に「静嘉堂藏書」印。

※巻第六は、全一一葉（『宋本』も全一一葉）。

※巻第七は、全二八葉（『宋本』も全二八葉）。

※巻第八は、全三三葉（『宋本』も全三三葉）。

第三冊（厚さ約一・二センチ。全一一三葉。巻第九〜巻第十一を収録）

※巻第九は、全三四葉（『宋本』も全三四葉）。一葉目内

題の下に「静嘉堂藏書」印。

※巻第十は、全四三葉（『宋本』も全四三葉）。

※巻第十一は、全三六葉（『宋本』も全三六葉）。

第四冊（厚さ約一・二センチ。全一〇六葉。巻第十二〜巻第十四を収録）

※巻第十二は、全三九葉（『宋本』は全三八葉）。一葉目

内題の下に「静嘉堂藏書」印。

※巻第十三は、全二〇葉（『宋本』は全一九葉）。

※巻第十四は、全四七葉（『宋本』も全四七葉）。

第五冊（厚さ約一センチ。全八七葉。巻第十五〜巻第十七を収録）

※巻第十五は、全二八葉（『宋本』も全二八葉）。一葉目

内題の下に「静嘉堂藏書」印。

二 校勘凡例

※巻第十六は、全二九葉（『宋本』は全三〇葉）。

※巻第十七は、全三〇葉（『宋本』も全三〇葉）。

第六冊（厚さ約一センチ。全六九葉。巻第十八〜巻第

二十、「刊記」を収録）

※巻第十八は、全二二葉（『宋本』も全二二葉）。一葉目

内題の下に「静嘉堂藏書」印。

※巻第十九は、全一七葉（『宋本』も全一七葉）。

※巻第二十は、全三〇葉（『宋本』も全三〇葉）。

※「刊記」は、巻第二十の尾題の前の三行及び一葉分（『宋本』は巻第二十の尾題の後の三行及び一葉分）。

・『宋本』は、『宋本建康実録』（国家図書館出版社、二〇一七年）に抛り、錯簡がある場合は、本来あるべき葉数で示す。また葉の表・裏はそれぞれA・Bで表記する。

・『宋本』での葉数・行数に対応した表記を行い、例えば、「第三葉表五行目」は「三A―五」のように示す。更に割註がある場合は1・2で表記し、例えば「第十葉裏十一行目割註二行目」は「一〇B―一2」のように示す。複数の行や割註に跨る場合は「一〜二」または「1〜2」などと表わす。

・『宋本』と陸本との文字の異同を示す際には、例えば、「『宋本』

に「●」とある文字を陸本では「◆」という文字に作る」という場合は、「●」↓「◆」という形で示す。

・俗字や陸本が筆写された清代の諱字に関する異同には基本的に言及しない。また校勘における文字表記は原則として正字（繁体字）を使用する。

・文字間隔から想定される欠落文字数や空格を「□」で示す。

・判読不能な不全文字や不鮮明の故に複数の文字が想定される場合は、「▲」で示す。

・残角等からも判読可能な不全文字や不鮮明文字は、四角で囲んで表記する。

・参考として今回の対校箇所限り、「宋本」と張校本及び孟校本の本文表記との間に文字の異なる場合は、その字句の異同を示す。ただし、両校本に附される句読点等は省略する。

三 陸本第一冊の校勘

◎ 叙

・一 A―一…「建康實錄叙」↓「建康實錄序」

※張校本・孟校本は「建康實錄序」に作る。

・一 A―五…「漢曆」↓「漢歷」

※孟校本は「漢歷」に作る。

◎ 卷第一・呉上

○ 太祖上

・一 A―八一…「牽牛」↓「率牛」

・一 B―八二…「三井岡」↓「三井岡」

※張校本・孟校本は「三井岡」に作る。

・二 A―三一…「中山▲川」↓「中山潁川」

※張校本は「中山潁川」に、孟校本は「中山潁川」に作る。

・二 A―三二…「東郡▲瑯」↓「東郡琅瑯」

※張校本・孟校本は「東郡琅瑯」に作る。

・二 A―三二…「齊郡上▲」↓「齊郡上谷」

※張校本・孟校本は「齊郡上谷」に作る。

・二 B―四一…「漢揚州」↓「漢陽州」

※張校本は「漢揚州」に作る。

・二 B―六…「治城」↓「治城」

※『宋本』は元「治」に作るが、何者かによって「治」に加筆修正されている。

・二 B―七二…「時人呼」↓「時人呼」

・三 A―六一…「詣鍾」↓「詣鍾」

・三 B―一…「上紐▲五龍龍一▲缺」↓「上紐交五龍龍一角缺」

※張校本・孟校本は「上紐交五龍龍一角缺」に作る。

・三 B―六一…「而啓▲曰▲可取」↓「而啓父曰彼可取」

煩瑣を避けて以降は一々触れない。

・一四A―一…「面折之」↓「而折之」

・一四A―四…「津北之難」↓「淮北之難」

※張校本・孟校本は「淮北之難」に作る。

・一五A―四…「天下之疊」↓「天下之疊」

※『宋本』は元「疊」に作るが、何者かによって「疊」に加筆修正されている。

・一六A―一〇…「賊走」↓「賤走」

・一六B―五…「討其子弟」↓「計其子弟」

※張校本・孟校本は「訓其子弟」に作る。

・一七A―七…「數十萬衆」↓「數卜萬衆」

・一七A―九…「脩檄」↓「修檄」

・一七A―一…「玄德」↓「元德」

・一八B―二…「聰明」↓「聰明」

・一八B―九…「小國」↓「少國」

・一九A―九…「玄德」↓「元德」

・一九B―一〇…「尙書桓峙」↓「尙書相峙」

※張校本・孟校本は「尙書桓階」に作る。

・二一A―四2…「丹陽領二十九縣」↓「丹陽領二十一縣」

・二二A―一〇…「吳魏時立」↓「吳魏時立」

※『宋本』は元「時」に作るが、何者かによって判然と

しないものの「峙」に加筆修正されているようにも見える。

※張校本・孟校本は「吳魏時立」に作る。

・二三A―一…「運在」↓「運在」

・二三A―八…「乃令有▲▲」↓「乃令有司篤」

※張校本・孟校本は「乃令有司寫」に作る。

・二三A―九…「同▲益之」↓「同損益之」

※張校本・孟校本は「同損益之」に作る。

・二三A―一〇…「變字▲▲蒼梧▲信人也」↓「變字威彥蒼梧廣信人也」

梧廣信人也」

※張校本・孟校本は「變字威彥蒼梧廣信人也」に作る。

・二三A―一…「丞令」↓「丞令」

※孟校本は「丞令」に作る。

・二三B―一…「交州刺史朱▲」↓「交州刺史朱符」

※張校本・孟校本は「交州刺史朱符」に作る。

・二三B―九…「南土」↓「南上」

・二四A―六…「降魏」↓「歸魏」

※張校本・孟校本は「歸魏」に作る。

・二五A―一…「遷揚州牧」↓「選揚州牧」

・二五A―六1…「兄事▲降」↓「兄事乞降」

※張校本・孟校本は「兄事乞降」に作る。

- ・ ※張校本・孟校本は「而啓父曰彼可取」に作る。
 - ・ 三B―八1…「時年十七父▲」↓「時年十七父亡」
 - ・ ※張校本・孟校本は「時年十七父亡」に作る。
 - ・ 四A―二1…「白虎降殺之」↓「白虎降殺之」
 - ・ 四A―二1…「鎮於會稽」↓「鎮于會稽」
 - ・ 四A―六2…「杖兵」↓「仗兵」
 - ・ 四B―五…「于吉」↓「干吉」
 - ・ 五A―四1…2…「御名」↓「御名」(朱筆)
 - ・ ※張校本・孟校本は「構」に作る。「構」は南宋・高宗の諱字に当たる。
 - ・ 五A―九…「▲有君臣之固」↓「未有君臣之固」
 - ・ ※文意としては「未」であるが、字形は「未」に近い。
 - ・ ※張校本・孟校本は「未有君臣之固」に作る。
 - ・ 七A―九…「便輿」↓「便吳」
 - ・ 七B―一〇…「租布」↓「根布」
 - ・ 八B―一…「始▲」↓「始所」
 - ・ ※張校本・孟校本は「始新」に作る。
 - ・ 九A―三…「舡舫」↓「船舫」
 - ・ ※張校本・孟校本は「船舫」に作る。
 - ・ 九A―一…「長坂」↓「長板」
 - ・ 九B―九…「北舡」↓「北船」
-
- ・ ※張校本・孟校本は「北船」に作る。
 - ・ 一B―一1…「騎人諸曰」↓「時人謠曰」
 - ・ ※張校本・孟校本は「時人語曰」に作る。
 - ・ 一B―二2…「乃■」↓「乃□」
 - ・ ※張校本・孟校本は「乃密」に作る。
 - ・ 一B―二2…「遣九江蔣幹」↓「道九江蔣幹」
 - ・ 一B―四1…「而■說客」↓「而云說客」
 - ・ ※張校本・孟校本は「而云說客」に作る。
 - ・ 一B―五2…「骨肉之恩」↓「賁肉之恩」
 - ・ 一B―六1…「而折其辭」↓「而折其辭」
 - ・ ※張校本・孟校本は「而折其辭」に作る。
 - ・ 一B―七2…「值軍疾疫」↓「值軍俟疫」
 - ・ 二A―八…「行五▲里」↓「行五六里」
 - ・ ※張校本・孟校本は「行五六里」に作る。
 - ・ 二A―九…「舟舡」↓「舟船」
 - ・ ※張校本・孟校本は「舟船」に作る。
 - ・ 二A―一〇1…「大舡」↓「大船」
 - ・ ※張校本・孟校本は「大船」に作る。
 - ・ 二A―一〇2…「舡舡」↓「船船」
 - ・ ※張校本・孟校本は「船船」に作る。
- ※以下も同様に「舡」を「船」に作る人が多いので、

◎卷第二・吳中〔上〕

○太祖下

- ・一A―一―「六軍▲▲」↓「六軍所望」
- ※張校本・孟校本は「六軍所望」に作る。
- ・三A―四1―「遣方士」↓「還方士」
- ・三A―五2―「故温▲▲得夷洲人」↓「故温只得夷洲人」
- ※張校本・孟校本は「故温只得夷洲人」に作る。
- ・四A―一〇―「玄兔」↓「元兔」
- ・七A―二―「帝常曰」↓「帝嘗曰」
- ※張校本・孟校本は「帝嘗曰」に作る。
- ・七A―六―「拔蔡款」↓「救蔡款」
- ・七A―一〇1―「其間平地」↓「其間子地」
- ・七B―八―「▲之二月」↓「許之二月」
- ※張校本・孟校本は「許之二月」に作る。
- ・八A―四―「諸大臣」↓「請大臣」
- ・八B―五―「詰鴻」↓「詰鴻」
- ※張校本・孟校本は「詰鴻」に作る。
- ・八B―七―「乘城」↓「來城」
- ・九A―八―「取亂侮亡▲」↓「取亂侮亡宜」
- ※張校本・孟校本は「取亂侮亡宜」に作る。
- ・一一A―八1―「害諸葛恪」↓「害諸葛恪」

- ※張校本・孟校本は「害諸葛恪」に作る。
- ・一一A―九1―「遂飲毒」↓「遂飲毒」
- ※張校本・孟校本は「遂飲毒」に作る。
- ・一一A―一2―「大夏等」↓「大夏等」
- ※張校本・孟校本は「大夏等」に作る。
- ・一一B―四1―「北漣也」↓「北漣也」
- ※張校本・孟校本は「北漣也」に作る。
- ・一一B―五2―「王僧達觀鬪鷄」↓「王僧達觀圖鷄」
- ・一一B―六2―「其清溪上」↓「其青溪上」
- ※張校本・孟校本は「其青溪上」に作る。
- ・一一B―八2―「東逼清溪」↓「東逼清溪」
- ※張校本・孟校本は「東逼清溪」に作る。
- ・一一B―一〇2―「尙書孫瑒」↓「尙書孫瑒」
- ・一一B―一12―「清溪中曲▲何窮▲也」↓「清溪中曲復何窮盡也」
- ※張校本・孟校本は「清溪中曲復何窮盡也」に作る。
- ・一二A―三―「猥割」↓「衆割」
- ・一二B―八―「諷論」↓「諷論」
- ・一二B―二―「八月」↓「八年」
- ※『宋本』は元「月」に作るが、何者かによって判然としないものの「年」に加筆修正されているようにも見

える。

※張校本・孟校本は「八年」に作る。

・一四A―一〇…「遜不勝憤」↓「遜不勝積」

・一五A―三一…「西南流二十六里」↓「西南流二十五里」

※張校本・孟校本は「西南流二十五里」に作る。

・一五A―一〇…「適南宮」↓「通南宮」

・一五A―一〇…「改爲太初宮」↓「故爲太初宮」

・一六A―五一…「光坐灰中手持一卷」↓「光生灰中手持一卷」

・一六A―六二…「請使往蜀」↓「請使在蜀」

・一六A―六二…「欲了而還」↓「欲了而還」

・一六A―七一…「張溫因附家書而歸」↓「張溫附家書而歸」

※張校本・孟校本は「溫附家書而歸」に作る。

・一六B―一…「雲陽」↓「雲陽言黃龍」

※張校本は「雲陽言黃龍」に、孟校本は「雲揚言黃龍」

に作る。

・一六B―二…「表德也」↓「表德也朕」

※張校本は「表德也朕」に、孟校本は「表德也朕何以」

に作る。

・一六B―三…「雖休」↓「雖佑」

・一六B―三…「以匡」↓「以匡不」

※張校本・孟校本は「以匡不」に作る。

・一六B―八一…「征羌今郡豪也」↓「征羌今郡之豪也」

※張校本・孟校本は「征羌令郡之豪也」に作る。

・一六B―八二…「辭色自若」↓「辭色自若及食」

※張校本・孟校本は「辭色自若及食」に作る。

・一六B―九一…「飽食」↓「飽食」↓「飽食訖」

辭出旌怒曰寧能忍此

※張校本・孟校本は「飽食訖辭出旌怒曰寧能忍此」に作る。

・一六B―九二…「固其宜也復何耻爲」↓「固其宜也復何耻爲」

※張校本・孟校本は「固其宜也復何耻爲」に作る。

・一七A―五…「天下」↓「人下」

・一七A―一〇…「任賢之時」↓「在賢之時」

・一八B―八…「招誘降附」↓「搖誘降附」

・一八B―一〇…「御軍住計」↓「御軍任計」

※張校本・孟校本は「御軍任計」に作る。

・一九B―九…「大臣」↓「大臣泥首」

※張校本・孟校本は「大臣泥首」に作る。

・二〇A―二…「無難督陳」↓「無難督陳正與五營」

※張校本・孟校本は「無難督陳正與五營」に作る。

・二〇A―三…「陳象等」↓「陳象等」

※張校本・孟校本は「陳象等」に作る。

・二〇A―三…「殺申生」↓「殺申生」

※張校本・孟校本は「殺申生」に作る。

・二〇A―七…「吳郡▲▲▲▲貌」↓「吳郡人少有姿貌」

※張校本・孟校本は「吳郡人少有姿貌」に作る。

・二〇B―三…「嘗隨侍」↓「常隨侍」

※張校本・孟校本は「常隨侍」に作る。

・二〇B―八…「大缸」↓「六船」

※張校本・孟校本は「大船」に作る。

◎卷第三・吳中下

○麋帝亮

・二B―五…「大饗」↓「大享」

・二B―六…「▲▲席」↓「以葦席」

※張校本・孟校本は「以葦席」に作る。

・二B―七…「有▲▲云」↓「有童謠云」

※張校本・孟校本は「有童謠云」に作る。

・三A―四…「臣父知所事」↓「臣父知□所事」

・三A―一〇…「羅兵阻險莫▲」↓「羅兵阻險莫與」

※張校本・孟校本は「羅兵阻險莫與」に作る。

・三A―一一…「使▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲」↓「使無遺種

舊穀既盡新田不收」

※張校本・孟校本は「使無遺種舊穀既盡新田不收」に作る。

・三B―一…「飢困自出者▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲撫之」↓「飢

困自出者輒不得執之任其來往慰撫之」

※張校本・孟校本は「饑困自出者輒不得執之任其來往慰

撫之」に作る。

・三B―二…「皆安堵▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲▲桑」↓「皆安堵累遷

威北將軍屯柴桑」

※張校本・孟校本は「皆安堵累遷威北將軍屯柴桑」に作る。

・三B―三…「譽遜遜▲▲代▲▲軍荊州牧」↓「譽遜遜薨代

爲大將軍荊州牧」

※張校本・孟校本は「譽遜遜薨代爲大將軍荊州牧」に作る。

・三B―四…「百官惣已」↓「百官總已」

※張校本は「百官總已」に、孟校本は「百官總已」に作る。

・四A―一一…「孝子曰▲▲所入中外守備」↓「孝子曰向

不知所入中外守備」

※張校本・孟校本は「孝子曰向不知所入中外守備」に作る。

・四B―一…「棟中折▲▲」↓「棟中折自」

※張校本・孟校本は「棟中折自」に作る。

・四B―一…「白虹」↓「自虹」

・四B―二1～2…「案地▲▲宅在城東二里玄▲▲觀前▲▲路▲▲

▲▲」↓「案地圖宅在城東二里元風觀前

橫路南是」

※張校本は「案地圖宅在城東二里玄風觀前橫路南」に、

孟校本は「按地圖宅在城東二里玄風觀前橫路南是」に作る。

・四B―一〇二「孫休」↓「孫林」

・七A―三「成午夜」↓「戊午夜」

※張校本・孟校本は「戊午夜」に作る。

・七A―五「大位」↓「大任」

※張校本・孟校本は「大任」に作る。

・七A―八2「忠貞之卽」↓「忠貞之卽」

※張校本・孟校本は「忠貞之節」に作る。

・七B―七「帝卽呼吏」↓「帝卽持吏」

※張校本・孟校本は「帝卽持吏」に作る。

○景皇帝

・八A―九「宗正孫措」↓「宗正孫措」

※張校本・孟校本は「宗正孫措」に作る。

・八A―一〇「楷等具啓本意」↓「楷答具啓本意」

※張校本は「楷答具啓本意」に作る。

・九A―一〇「大臣畏之」↓「大臣畏之」

※張校本・孟校本は「大臣畏之」に作る。

・九B―一〇A―一「種甘橘千樹」↓「種甘橘千樹」

※張校本・孟校本は「種甘橘千樹」に作る。

・一〇A―八2「晉咸康▲」↓「晉咸康中」

※張校本・孟校本は「晉咸康中」に作る。

・一A―二「表辭疾」↓「表稱疾」

※張校本・孟校本は「表稱疾」に作る。

・一B―一「受託孤之任」↓「受託孤之任」

・二A―八「是其謂乎」↓「是其謂乎」

・二B―六「穿土」↓「穿工」

・一四A―七「杖術」↓「杖術」

※張校本・孟校本は「杖術」に作る。

◎卷第四・吳下

○後主

・二A―二2「亡時衣服」↓「亡時衣服」

・二A―八12「今上御名」↓「御名」(朱筆)

※張校本・孟校本は「構」に作る。

・二A―一〇「夷三族興字子元」↓「夷三族一興字子元」

・二B―四「表裏」↓「表裘」

・二B―一「弘▲□□」↓「宏瑒□□」

※張校本は「弘瑒隨紹」に、孟校本は「宏瑒隨紹」に作る。

・三A―五「百寮陪位」↓「百官陪位」

※張校本・孟校本は「百官陪位」に作る。

・三A―六「昭饗陟」↓「昭享陟」

・三A―一〇「蔣陵」↓「將陵」

・三B―三I…「殺朱主」↓「殺朱主」

・三B―一〇…「宋本」と同様、「復苦」の下の九字分を欠く。

・三B―一一…「宋本」と同様、「御史大夫」の下の九字を欠く。

※張校本は「御史大夫丁固右將軍諸葛靚守」に、孟校本

は「御史大夫丁固右將軍諸葛靚鎮」に作る。

・五A―七1…「今在▲州武康縣」↓「今在湖州武康縣」

※張校本・孟校本は「今在湖州武康縣」に作る。

・五A―七2…「至秣陵▲▲▲▲▲日▲」↓「至秣陵欲立爲

帝擇日使」

※張校本・孟校本は「至秣陵欲立爲帝擇日使」に作る。

・五A―八…「望氣者云荊州▲▲▲▲▲天子氣▲▲▲▲▲楊州」↓「望氣者云

荊州有天子氣破楊州」

※張校本は「望氣者云荊州有天子氣破揚州」に、孟校本

は「望氣者云荊州有天子氣破楊州」に作る。

・五A―九…「後主▲▲▲▲▲武昌仍使▲▲▲▲▲破荊州界」↓「後主上武昌

仍使掘破荊州界」

※張校本・孟校本は「後主上武昌仍使掘破荊州界」に作る。

・五A―一〇…「但等果反」↓「但等果反」

※張校本・孟校本は「但等果反」に作る。

・五A―一一…「入建業▲▲▲▲▲」↓「入建業殺謙妻子」

※張校本・孟校本は「入建業殺謙妻子」に作る。

・五B―一…「破揚州賊以▲▲▲▲▲會稽」↓「破揚州賊以厭

其氣分會稽」

※張校本は「破揚州賊以厭其氣分會稽」に、孟校本は「破

揚州賊以厭其氣分會稽」に作る。

・五B―七…「民命盡▲▲▲▲▲而」↓「民命盡無爲而」

※張校本・孟校本は「民命盡無爲而」に作る。

・六A―七…「脩之由德」↓「修之由德」

※張校本・孟校本は「修之由德」に作る。

・七A―二…「正▲▲▲▲▲此起」↓「正由此起」

※張校本・孟校本は「正由此起」に作る。

・七B―三…「詹簾」↓「詹簾」

・七B―八…「給其資糧」↓「給其資糧」

※張校本・孟校本は「給其資糧」に作る。

・七B―九…「宋本」と同様、「家唯空」の下の一字分を欠く。

※張校本・孟校本は「家唯空」に作る。

・八A―三…「使春唯知農」↓「使春唯知農」

※孟校本は「使春唯知農」に作る。

・八A―八…「寔由」↓「實由」

※張校本・孟校本は「實由」に作る。

・八B―一一…「窮極巧」↓「窮極伎巧」

※張校本・孟校本は「窮極伎巧」に作る。

・九A―二1…「右號▲▲雕鑿」↓「右號臨砌雕鑿」

※張校本・孟校本は「右號臨砌雕鑿」に作る。

・九A―二1…「青瑯」↓「青鎖」

・九A―二2…▲▲以仙靈」↓「畫以仙靈」

※張校本・孟校本は「畫以仙靈」に作る。

・九A―二2…「高闈有闕」↓「高門有闕」

※張校本・孟校本は「高門有闕」に作る。

・九A―三2…「飛薨舛玄」↓「飛薨舛五」

※張校本・孟校本は「飛薨舛五」に作る。

・九A―三2…「朱雀門」↓「朱雀門」

・九A―四2…「淮在比」↓「淮在北」

※張校本・孟校本は「淮在北」に作る。

・九B―一1…「宋本」と同様、「長沙」で終える。

※張校本・孟校本は「長沙爲安成郡」に作る。

・一〇A↘B…「宋本」と同様、一葉分を欠き、その代わりに白紙が挿入される。

に白紙が挿入される。

※「宋本」で前葉に当たたる「長沙」までの二一字がこの

白紙に及んでいる。

※張校本・孟校本には「長沙爲安成郡」以下の「三年春

二月」↘「是歲大赦」の二七〇字が多く存在し、先の

「爲安成郡」を加えれば、第十葉の二七四字に相当することになる。なお、「是歲大赦」以下は「原闕」に当たるとする。

・一A―一…「宋本」と同様、「是歲」で始まる。

・一B―九…「後主乃▲追」↓「後主乃逐追」

※張校本・孟校本は「後主乃逐追」に作る。

・二B―五…「收宮人繩」↓「收宮人純」

・二B―一〇2…「後主舅子何都」↓「後主舅子何郡」

・三A―四…「宋本」と同様、「占之曰□松字十八公」に作る。

る。

※張校本・孟校本は「占之曰松字十八公」に作る。

・三A―九…「幽邃」↓「幽遂」

・四A―一…「不入口□□□□□□」↓「不入口澆灌取盡昭素」

昭素」

※張校本・孟校本は「不入口澆灌取盡昭素」に作る。

・四A―二…「憂恐▲」↓「憂恐且」

※張校本・孟校本は「憂恐且」に作る。

・四A―一…「深以爲慙」↓「濃以爲慙」

※張校本・孟校本は「深以爲慙」に作る。

・四B―四…「修理城圍」↓「修理城關」

・一五A―一…「銜壁之事」↓「銜壁之事」

※張校本・孟校本は「銜壁之事」に作る。

・一五B―二…「巖山」↓「岩山」

・一五B―三2…「其石折三段時人呼爲段石岡」↓「其石折

三段時人呼爲段石岡」

※張校本・孟校本は「其石折三段時人呼爲段石岡」に作る。

・一五B―六…「賀劬」↓「賀邵」

※以下、同様に作る。

※張校本・孟校本は「賀邵」に作る。

・一五B―一…「劬字興伯」↓「郡字興伯」

・一六A―七…「朱書」↓「宋書」

・一六B―一…「長十餘丈」↓「長千餘丈」

・一六B―一〇…「識云」↓「識云」

・一七A―二1～2…「御名」↓「□□」

※張校本は「禎」に、孟校本は「構」に作る。「禎」は北宋

仁宗の諱字に当たる。

・一七A―六…「鬼日草」↓「鬼日草」

・一七A―七…「依緣」↓「依緣」

・一七B―一2…「黃稱」↓「黃狗」

・一八B―一…「宋本」と同様、「兵勢」で終える。

・一九A～B…「宋本」と同様、一葉分を欠き、その代わり

に白紙が挿入される。

※『宋本』で前葉に当たる「長沙」までの四一字がこの
白紙に及んでいる。

※張校本・孟校本には「兵勢」以下の「萬倍」↓「清論
譏之」の一九三字が多く存在し、また孟校本によれば、

「原闕」に当たる「清論譏之」以下の二〇六字の存在
が指摘されるので、第十九葉は元来少なくとも三九九
字存在していたことになる。

・二〇A―一1～2…『宋本』と同様、「出也」で始まる。

・二〇A―三1～2…「御名」↓「御名」(朱筆)

※張校本は「禎」に、孟校本は「構」に作る。

・二〇A―六1～2…「御名」↓「御名」(朱筆)

※張校本・孟校本は「禎」に作る。

・二〇B―二…「帝乎」↓「帝平」

・二〇B―二1～2…「御名」↓「御名」(朱筆)

※張校本は「禎」に、孟校本は「構」に作る。

・二〇B―六…「惣蜀兵」↓「總蜀兵」

※張校本・孟校本は「總蜀兵」に作る。

・二一A―三…「含弘光大」↓「含宏光大」

※孟校本は「含宏光大」に作る。

・二一A―一〇…「惣領州郡」↓「總領州郡」

※張校本・孟校本は「總領州郡」に作る。

・二二B―五二「不脩」↓「不修」

※張校本・孟校本は「不修」に作る。

・二二A―三二「暮年」↓「期年」

・二二A―九二「膂力」↓「膂力」

・二二A―一〇二「彦觀之▲然」↓「彦觀之慨然」

※張校本・孟校本は「彦觀之慨然」に作る。

・二二A―一一二「後置▲▲不足慕少起家爲▲將」↓「後當

至此不足慕少起家爲小將」

※張校本・孟校本は「後當至此不足慕少起家爲小將」に作る。

・二二B―一〇「奇其勇略▲用之」↓「奇其勇略拔用之」

※張校本・孟校本は「奇其勇畧拔用之」に作る。

・二二B―三二「舉凡禦之」↓「舉凡禦之」

・二二B―三一「案吳錄王濬▲▲」↓「案吳錄王濬將拔」

※張校本・孟校本は「案吳錄王濬將拔」に作る。

・二二B―三二「於蜀彦▲▲」↓「於蜀彦覺」

※張校本・孟校本は「於蜀彦覺」に作る。

・二二B―四一「請增兵▲▲不從」↓「請增兵爲備皓不從」

※張校本・孟校本は「請增兵爲備皓不從」に作る。

・二二B―四二「彦▲▲攻之上下」↓「彦堅守攻之不下」

※張校本・孟校本は「彦堅守攻之不下」に作る。

・二二B―五二「吳主」↓「吳王」

※張校本・孟校本は「吳王」に作る。

・二二B―六一「天祿永終」↓「天祿未終」

・二二B―六二「張華在坐」↓「張華臣坐」

・二二B―一〇二「絹五百匹」↓「絹五百疋」

※張校本・孟校本は「絹五百疋」に作る。

・二二A―三二「後▲年」↓「後五年」

※張校本・孟校本は「後五年」に作る。

・二二A―四二「后自爲哀策文甚酸▲▲」↓「后自爲哀策文甚

酸楚」

※張校本・孟校本は「后自爲哀策文甚酸楚」に作る。

・二二A―五一「年二十二」↓「年三十二」

・二二A―五二「▲▲在武昌」↓「七年在武昌」

※張校本・孟校本は「七年在武昌」に作る。

・二二A―九一「案吳志達▲河南人」↓「案吳志達本河南人」

※張校本・孟校本は「案吳志達河南人」に作る。

・二二A―一〇一「渡江治▲宮」↓「渡江治九宮」

※張校本・孟校本は「渡江治九宮」に作る。

・二二A―一〇一「是以應▲▲立成對問▲神」↓「是以應

機立成對問若神」

※張校本・孟校本は「是以應機立成對問若神」に作る。

- ・二三A―1〇2…「得此術欲圖」↓「得此術欲圖」
- ※張校本・孟校本は「得此術欲圖」に作る。
- ・二三A―1〇2…「至予三世」↓「至予三世」
- ・二三A―11…「令達▲在位幾年▲」↓「令達算在位幾年」
- ※張校本・孟校本は「令達算在位幾年」に作る。
- ・二三A―12…「陛下▲之」↓「陛下倍之」
- ※張校本・孟校本は「陛下倍之」に作る。
- ・二三A―12…「我不出▲牖」↓「我不出戶牖」
- ※張校本・孟校本は「我不出戶牖」に作る。
- ・二三B―11…「帝每問其▲終不言」↓「帝每問其法終不言」
- ※張校本・孟校本は「帝每問其法終不言」に作る。
- ・二三B―12…「黄象字休明」↓「黄象字休曲」
- ※張校本・孟校本は「皇象字休明」に作る。
- ・二三B―11…「宋壽能▲夢▲不失一」↓「宋壽能占夢十不失一」
- ※張校本・孟校本は「宋壽能占夢十不失一」に作る。
- ・二三B―11…「曹不興善畫▲動▲▲與▲太祖」↓「曹不興善畫妙動神明與太祖」
- ※張校本・孟校本は「曹不興善畫妙動神明與太祖」に作る。
- ・二三B―12…「帝以生蠅舉手▲之」↓「帝以主蠅舉手彈之」
- ※張校本・孟校本は「帝以生蠅舉手彈之」に作る。

註

- ・二三B―12…「▲城▲嫗」↓「孤城鄭嫗」
 - ※張校本・孟校本は「孤城鄭嫗」に作る。
 - ・二三B―13…「天紀末」↓「天紀末」
 - ※張校本・孟校本は「天紀末」に作る。
 - ・二三B―15…「▲備其亡」↓「不備其亡」
 - ※張校本・孟校本は「不備其亡」に作る。
 - ・二三B―16…「在可六七歲」↓「年可六七歲」
 - ※張校本・孟校本は「年可六七歲」に作る。
 - ・二三B―1〇〇…「唐至德元年」↓「唐德元年」
 - ※『宋本』は元「唐德」に作るが、何者かによって「唐」と「德」の間の右横に小文字で「至」が加筆されている。
- (1) 本書の史料の性格を論じるものに、安田二郎「冷遇の書―許嵩『建康実録』―」(『週刊朝日百科 世界の文学』一〇三、朝日新聞社、二〇〇一年)、同「梁書」「陳書」及び「南史」に関する史料論的研究序説「許嵩とその撰述の書『建康実録』―」(同氏『梁書』『陳書』及び「南史」の史料論的研究)所収、平成二二・二三・一四年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書、二〇〇三年)、同「許嵩と『建康実録』」(『六朝学術学会報』七、二〇〇

六年)、拙稿「許高『建康実録』の撰述と望気者の予言」(『史朋』五〇、二〇一八年)等がある。

- (2) 張校本と孟校本は、共に一九〇二年の廿元煥・甘曾圻版本(桑泊草堂翻宋刻本。のち『筆記小説大観』二〇編第二・三冊に収録。台湾・新興書局、一九七七年)を底本として作られている。なお、本書の諸テキストの系統を論ずるものに森森健介「上海図書館蔵鈔本『建康実録』考」(『徳島大学総合科学部紀要(人文・芸術研究篇)』五、一九九二年)がある。

- (3) 本書の校勘に関するものとしては、蒙文通「『宋略』存於『建康実録』考」附『宋略総論』校記」(『国立北平図書館館刊』八、一九三四年。のち『蒙文通文集』③・経史抉原)所収、巴蜀書社、一九九五年)、酈承銓「建康実録校記」(一九三三・三四年初出。のち『金陵全書乙編史料類』建康実録)所収、南京出版社、二〇一〇年)、陶元珍「建康実録札記」(『史学季刊』一一二、一九四一年。孫呉部分のみを扱う)が先駆的な基礎研究として挙げられる。張校本と孟校本が刊行された後に、その校勘・標点の問題を論ずるものとしては、鮑良紅「『建康実録』標点質疑」(『南京大学報(社会科学版)』一九八八年二期)、丁福林「点校本『建康実録』卷十一標点志疑」(『鎮江師專學報(社会科学版)』一九八九年二期)、陳勇「建康実録」点校商榷」(『史学月刊』一九八九年三期)、張聯榮「建康実録」標点質疑」(『語文研究』一九八九年三期)、高敏・朱和平「一

部頗具特色的古籍点校——張忱石点校『建康実録』述評」(『信陽師範學院學報(哲社社会科学版)』一九九〇年二期)、張琪敏「建康実録」校勘札記」(『南京師大學報(社会科学版)』一九九一年一期)、劉浦江「『建康実録』校点本嘗議」(『古籍整理研究學刊』一九九一年四期)、蔣宗許「『建康実録』校点献疑」(『古籍整理研究學刊』一九九一年四期)、方一新「『建康実録』釈詞」(『杭州師範學院學報』一九九五年一期)、季忠平「『建康実録』宋本校勘鄒議」(『文献季刊』二〇〇一年三期)、季忠平「『建康実録』校勘札記」(『古籍整理研究學刊』二〇〇二年三期)、丁福林「校点本『建康実録』卷十一商榷及思考」(『塩城師範學院學報(人文社会科学版)』二六一、二〇〇六年)等の研究がある。

- (4) 『宋本』は現在、①『古逸叢書三編之九 建康実録』(線装本・二帙八冊。中華書局、一九八四年)、②『中華再造善本・史部唐宋編 建康実録』(線装本・二帙一六冊。北京圖書館出版社、二〇〇三年)、③『金陵全書 乙編史料類 建康実録』(精裝本・全二冊。南京出版社、二〇一〇年)、④『宋本建康実録』(②の縮印平装本・全五冊。國家圖書館出版社、二〇一七年)という四つの影印本が出版されている。これらの書誌的特徴・問題点については、拙稿「ヘンテコリンな六朝通史『建康実録』の最古刊本」(『東方』四六一、二〇一九年)を参照。

- (5) 陸心源とその蔵書が静嘉堂文庫に所蔵されるに至った経緯につい

ては、河田照（杜沢遜等点校）『静嘉堂秘籍志』（上海古籍出版社、二〇一六年）「整理説明」等を参照。なお、原版が一九一七年に刊行された『静嘉堂秘籍志』巻一七・別史類・「建康実録」条には、陸本について「影宋抄六本」、「影写宋刊本」とあるだけで、それ以上の鈔本自体に関する書誌情報は記されていない。

- (6) 陸本に関しては、池内宏ら監修『東洋歴史大辞典』（平凡社、一九三七年）「建康実録」条（小沼正氏執筆。四七八頁）、『東洋史料集成』（平凡社、一九五六年）「建康実録」条（一六〇頁）、山根幸夫編『中国史研究入門・上』（山川出版社、一九八三年）「建康実録」条（池田温氏執筆。二八三頁）、神田信夫・山根幸夫編『中国史籍解題辞典』（燎原書店、一九八九年）「建康実録」条（中村圭爾氏執筆。七三〜七四頁）等で早くからその存在が周知されていたが、註(2) 葎森氏論文で巻第一・太祖上の第一〜二葉が校勘されたに止まる。
- (7) 欠落箇所前後における文字の残存状況の長短は確かに存在するが、巻第十一第一葉表の欠落は、現状の『宋本』以外に見られない。おそらく陸心源が書写させた清末頃に新たに生じた欠落箇所であると考えられる。なお、今回は『宋本』系統における文字の異同を扱うが、実際のところ『四庫全書』本の『建康実録』においても文淵閣本と文津閣本の間における文字の異同や欠落箇所前後の残存文字の長短は少なくない。よって、一般に流布されている文淵閣本を以て『四庫全書』本と単純化して論じることが出来ない。

ことが指摘される。

(8) 註(4) 拙稿を参照。

(9) 註(2) 葎森氏論文は、陸本では「大」を「入」に作ると指摘するが、誤りである。

〔付記〕

今回、『写影宋 建康実録二十卷』の長期間に互る閲覧・調査及び複写に当たっては、静嘉堂文庫のご協力を仰いだ。末筆ではあるが記して謝意を表す。

本研究はJSPS科研費JP19H01325の助成を受けたものです。